

提 案 概 要

実施期日	7月28日(火)【午前】
部会名	小学校 特別支援部会

1 提案テーマ 『自ら考え、進んで取り組む子の育成』 ～児童の実態に応じた、交流及び共同学習をするための合理的配慮とは～

2 単元(題材) 算数(図形)

3 学年 第1学年及び第3学年

4 平成27・28年度神奈川県小学校教育課程研究会研究主題とのかかわり

②児童一人ひとりの教育的ニーズに応じた指導計画、指導内容、指導方法、指導体制、評価の工夫と改善

③関係者の連携による交流及び共同学習における指導計画、指導内容、指導方法、指導体制、評価の工夫と改善

5 学習指導要領との関連

第2章 第3節 算数〔第1学年及び第3学年〕 C 図形

6 実践に向けての課題意識

○本市における交流及び共同学習

《特徴》・伝統的に「交流教育」が浸透しており、通常の学級に特別支援学級の児童がいるのがあたりまえである。

- ・交流教育を保障するための「学習支援員制度」がある。担任の他、学習支援員が必要に応じて、通常の学級での学習や生活を支援する。

《課題》・「交流学級にいたること」が優先されやすい環境のために、特別支援学級の児童のニーズや個々の実態に応じた支援が手薄になりやすい。

○本校における交流および共同学習

コミュニケーションのあり方から検討→課題：「交流学級でのかかわりが乏しい。」

「話し合いの参加が難しい。」

⇒「だれとでもかかわりあえる子ども」を目指す。→・特別支援学級の特性を活かした活動

- ・交流学級の学級集団にアプローチ

以上の実践をもとに日々の授業の充実に焦点を当てた。

7 実践の概要

○既習事項＝児童の実態を生かした指導計画を作成する。

- ・児童の実態に応じて単元を構成し、必要に応じて先行して学習を行い、交流学級ではそれを活用する時間とする。

○児童の実態に応じた「合理的配慮」を行い、学校における「インクルーシブ教育」を推進する。

- ・児童の実態に応じて、指導時間を弾力的に運用する。
- ・交流学級の授業においても、支援が必要な児童にとって分かりやすい授業であれば、だれもが分かりやすい授業になり得るという視点から授業を検証する。

○交流学級での友だちとのかかわりを大切にする。

- ・教師と児童の「教える」「教わる」関係だけでなく、友だち同士の「学びあい」を体験させる。

8 成果と課題

《成果》・それぞれの授業の「目標」を明確化し実際に体験することを取り入れることで、学習の効果があがった。

- ・必要な支援を受けて、交流学級でも「自己肯定感」が育った。
- ・通常の学級の児童にとっても、分かりやすい授業になった。
- ・集団の場でも話を聞こうとする姿勢が身についた。

《課題》・実態把握や単元計画をチームで行わないと、ひとりよがりな指導になりやすい。

- ・チームに交流学級の担任にも加わってもらう。
- ・児童の実態がさまざまなために、事例として積み上げにくい。

9 予想される協議の柱

○インクルーシブ教育推進のためにどんな手立てや工夫をしているか。

- ・特別支援学級における手立てや工夫
- ・交流学級における手立てや工夫